

2022年10月4日 全8頁

# 新型コロナ拡大の影響を探る 消費データブック（2022/10/4号）

個社データ・業界統計・JCB消費NOWから足元の消費動向を先取り

経済調査部 エコノミスト 中村 華奈子

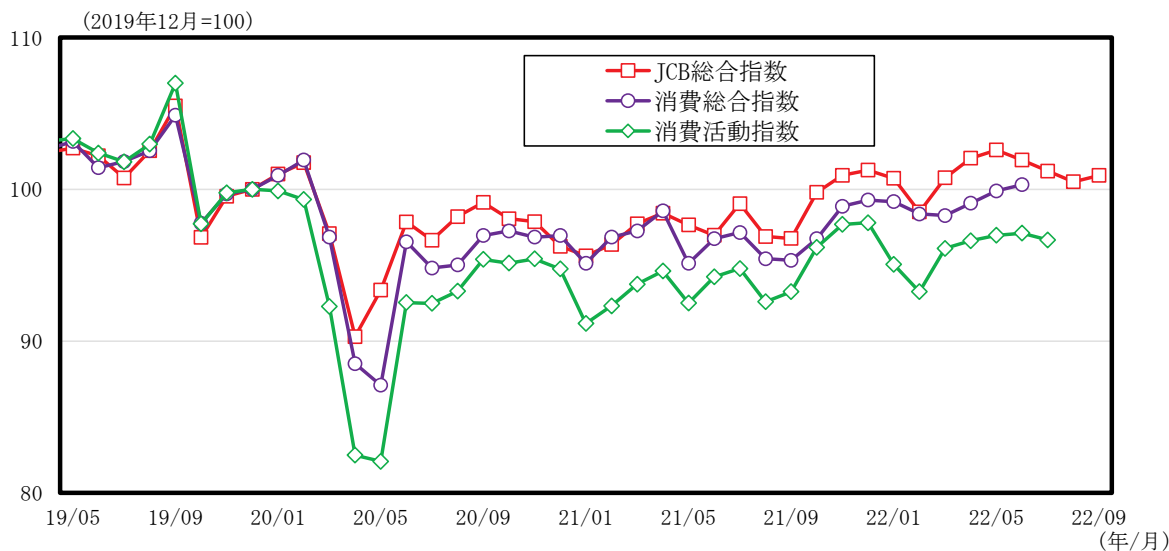
## 【要約】

- 2022年8月の消費は財、サービスともにふるわず、前月から伸び悩んだ。財消費のうち、百貨店大手3社の売上高は2019年同月比でマイナス幅が拡大し、アパレル各社の既存店売上高は減少した。サービス消費では、お盆期間の宿泊需要は堅調だったものの月全体では前月から小幅に減少した。外食は新型コロナウイルスの感染「第7波」の影響もあり、2019年同月比のマイナス幅が前月から拡大した。
- 9月の消費は前月から小幅に増加したとみている。財消費のうち、9月の新車販売台数は2カ月ぶりに増加した。サービス関連のうち、新幹線輸送量は北陸新幹線以外では2019年同期比のマイナス幅が前月から縮小した。外食でも同様にマイナス幅が縮小した。小売店・娯楽施設の人出は感染状況の改善を受け、9月下旬にかけて感染拡大前の水準に近づいている。こうした動きを反映して、サービス消費は前月から緩やかに回復したとみている。

## <消費全体の動き>

- ◆【JCB 総合指数】9月前半のJCB 総合指数<sup>1</sup>（大和総研による季節調整値）を元に9月の消費の伸び率を推計すると、前月比+0.4%であった。財は引き続き低下した一方、サービスは2カ月連続で上昇した。

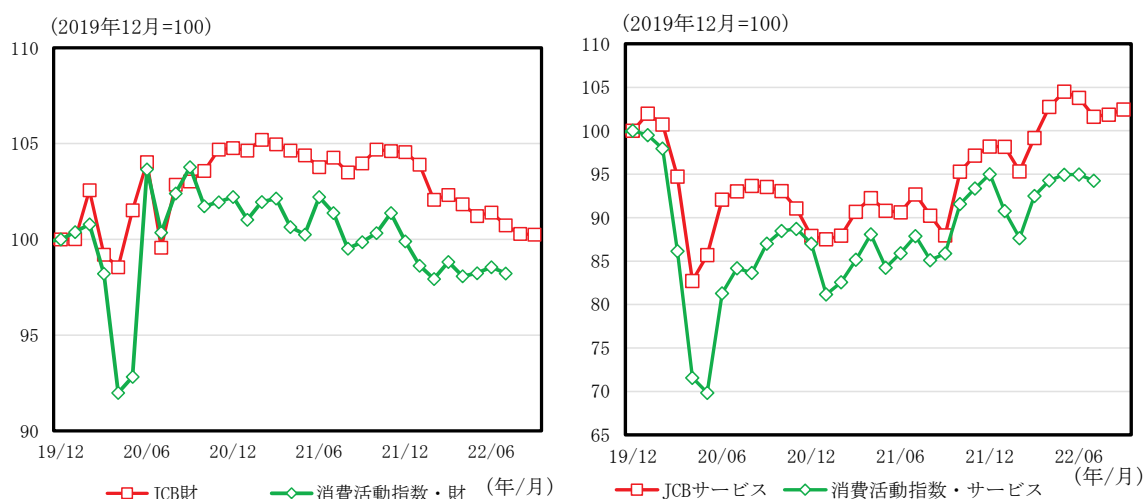
図表1：消費総合指数・消費活動指数・JCB 総合指数



(注) JCB 総合指数は大和総研による季節調整値。CPI(2020年基準)で実質化。

(出所) 日本銀行、内閣府統計、株式会社ナウキャスト/JCB「JCB 消費NOW」より大和総研作成

図表2：財・サービス別に見た消費の動き



(注1) JCB 財指数・JCB サービス指数は大和総研による季節調整値。CPI(2020年基準)で実質化。

(注2) 財の消費活動指数は、当該指数の耐久財・非耐久財を形態別ウエイトで加重平均したもの。

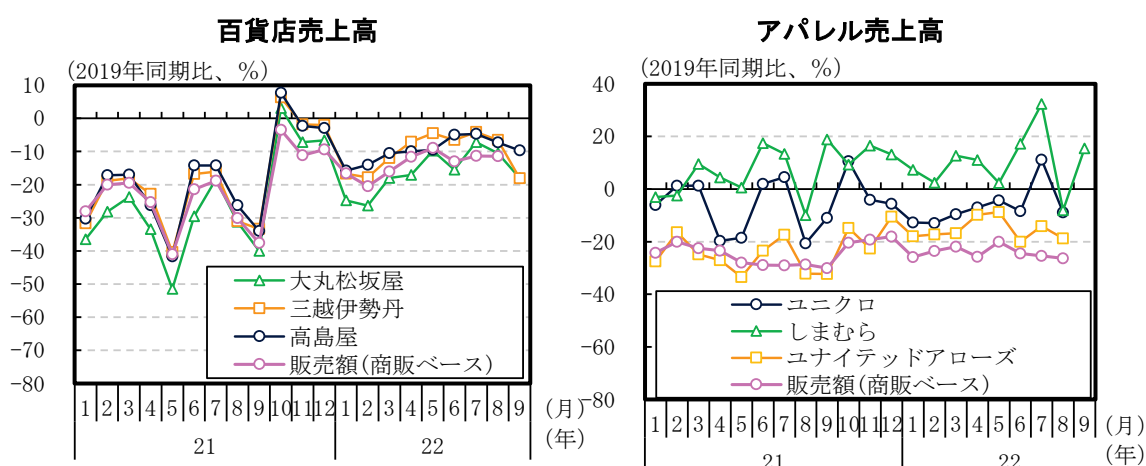
(出所) 日本銀行、内閣府統計、株式会社ナウキャスト/JCB「JCB 消費NOW」より大和総研作成

<sup>1</sup> JCB グループ会員の中からランダムに抽出された約1,000万会員を対象に、ナウキャスト社が作成・公表している消費指数。

## <小売関連>

- ◆【百貨店】 大手3社の8月の既存店売上高は、新型コロナウイルス感染拡大前である2019年同月比で前月からマイナス幅が拡大。感染「第7波」の影響で主要顧客である高齢層を中心に外出自粛傾向が見られ、客足が落ち込んだ。9月は3社ともにマイナス幅が拡大、同約1~2割減。
- ◆【アパレル】 8月のアパレル既存店売上高は、2019年同期比で3社ともに減少した。9月のしまむらの伸び率は同+20%程度に上昇。

図表3：百貨店・アパレルの売上高



(注1) 百貨店：既存店ベース。

(注2) アパレル：既存店ベース。ユニクロとユナイテッドアローズはネット通販を含む数値。

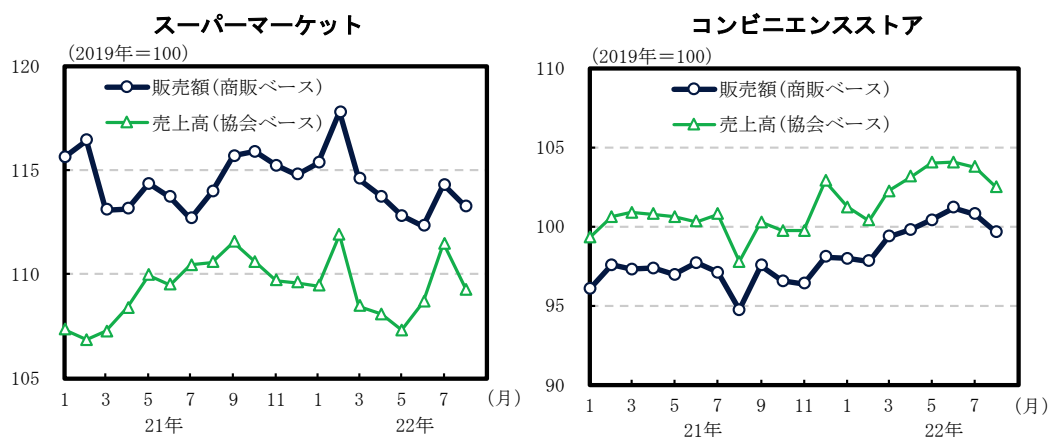
しまむらの各月の数値は前月21日から当月20日の集計値、2020年10月以降はオンラインストア含む。

(注3) アパレル販売額(商販ベース)は、商業動態統計の「衣服・身の回り品卸売業」を参照。

(出所) 経済産業省統計、各社資料より大和総研作成

- ◆【スーパーマーケット】 8月の売上高は前月比▲2.0%（大和総研による季節調整値）。惣菜や日配食品などの食品が減少。値上げの影響を受けて食品などの生活必需品では節約志向がやや強まったとみられる。
- ◆【コンビニエンスストア】 8月の売上高は前月比▲1.2%（大和総研による季節調整値）。日配食品や加工食品などが前月から減少。

図表4：スーパーマーケット・コンビニエンスストアの売上高

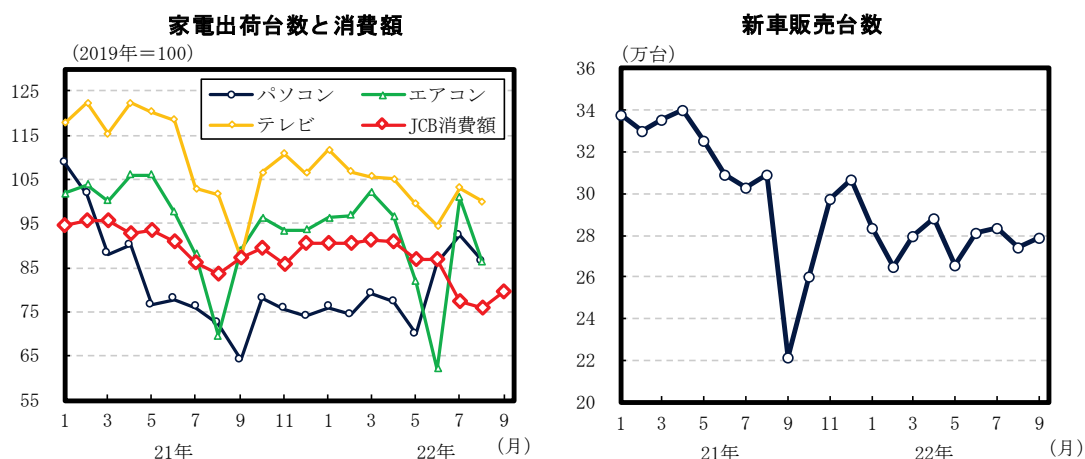


(注) 売上高(協会ベース)は既存店ベースの数値。大和総研による季節調整値。

(出所) 経済産業省、全国スーパーマーケット協会、日本フランチャイズチェーン協会より大和総研作成

- ◆【家電】 8月の出荷台数はエアコンが前月比▲14.4%、パソコンが同▲6.4%、テレビが同▲3.1%（大和総研による季節調整値）。前月の反動減に加え、2019年同月に発生した消費増税前の駆け込み需要の影響が表れたとみられる。9月のJCB消費額は同+4.8%。
- ◆【自動車】 9月の新車販売台数は前月比+1.7%（大和総研による季節調整値）。2カ月ぶりに増加に転じるも、依然として低水準にある。

図表5：家電出荷台数と新車販売台数

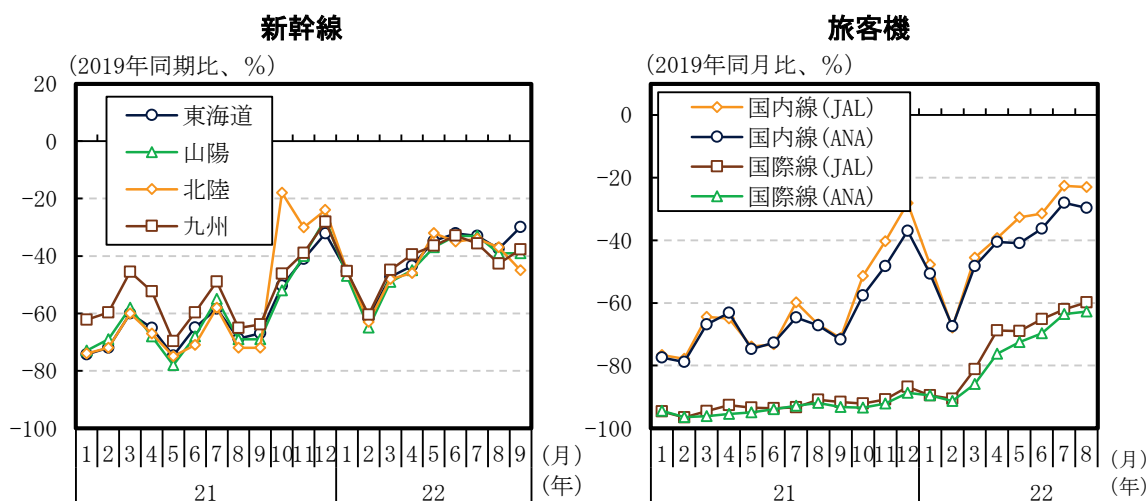


(注) 大和総研による季節調整値。JCB消費額はJCB「機械器具小売業」の9月前半データを元に伸び率を推計。  
(出所) 電子情報技術産業協会、日本冷凍空調工業会、日本自動車販売協会連合会、全国軽自動車協会連合会統計株式会社ナウキャスト/ JCB「JCB消費NOW」より大和総研作成

### <サービス関連>

- ◆【新幹線】 8月の輸送量は2019年同期比で4割減。9月の輸送量は各社まちまちの結果だが、北陸新幹線以外では前月からマイナス幅が縮小。
- ◆【旅客機】 8月の国内線輸送量は2019年同月比2~3割減と前月からマイナス幅がわずかに拡大。国際線は前月からマイナス幅が小幅に縮小。10月以降、航空各社は国際線需要の回復を見据えて運航便数の増加を計画している。

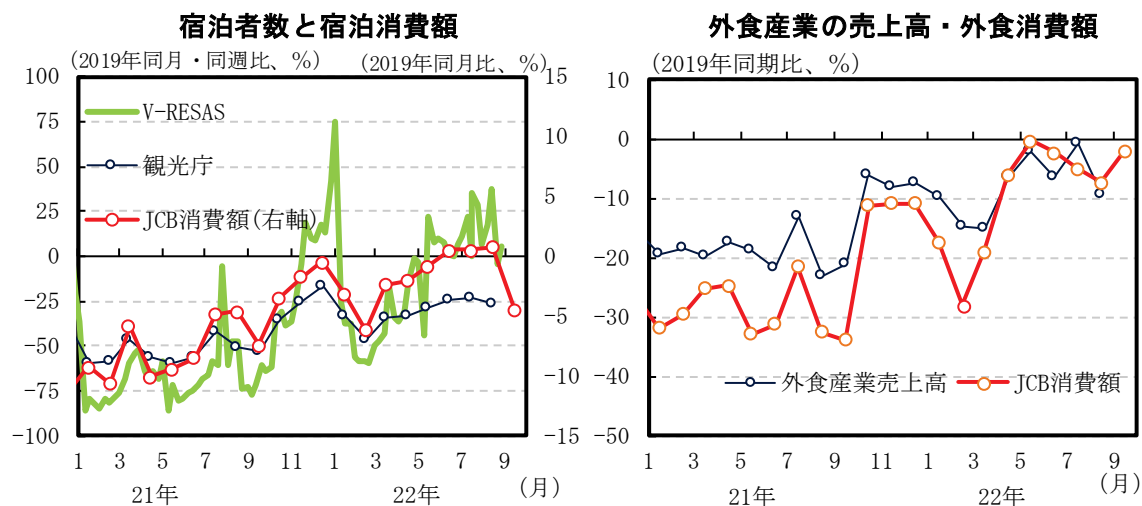
図表6：新幹線・旅客機の利用状況



(注) JAL・ANAのデータはグループ会社を含む数値。  
2022年9月の山陽と北陸は7日、東海は21日、九州は26日まで。  
(出所) JR東海、JR西日本、JR九州、JAL、ANA資料より大和総研作成

- ◆【宿泊】 8月の宿泊者数（観光庁、宿泊日数ベース）は2019年同月比▲26%と、前月からマイナス幅が小幅に拡大。V-RESAS（宿泊開始日ベース）で見ると、お盆期間の宿泊需要は堅調だったものの下旬にはその反動減もあり、月全体では前月から小幅に落ち込んだ。9月のJCB宿泊消費額は同▲6%と前月から落ち込んだ。
- ◆【外食】 8月の外食産業の売上高は、感染第7波の影響で人出が伸び悩んだこともあり2019年同月比▲9%と前月からマイナス幅が拡大。9月のJCB外食消費額は、感染「第7波」のピークアウトによる人出の回復に伴い、同▲2%とマイナス幅が縮小。

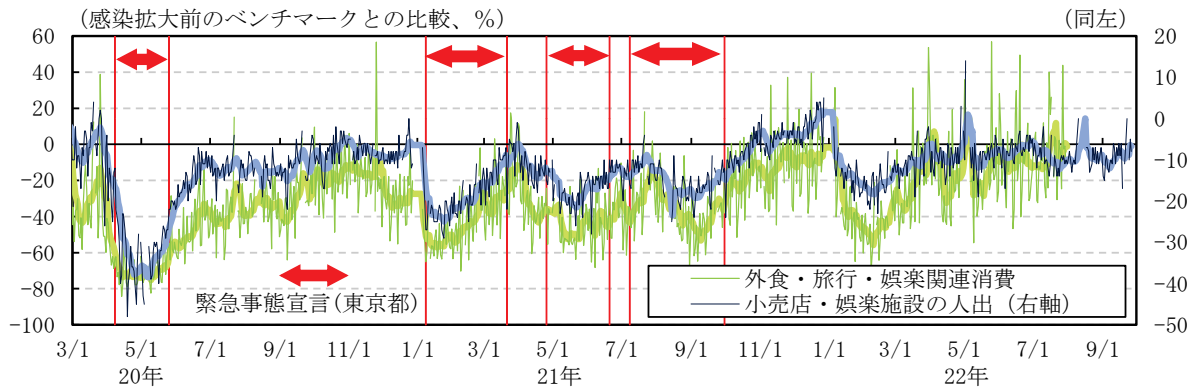
図表7：国内宿泊者数／外食産業の売上高



(注) V-RESASのデータは週次、それ以外は月次。JCB消費額は9月前半データを元に伸び率を推計。  
観光庁統計は宿泊日数ベース、V-RESASは宿泊開始日ベースの宿泊者数のデータを用いている。  
(出所) 観光庁、一般社団法人日本フードサービス協会統計、V-RESAS、株式会社ナウキャスト/ JCB「JCB消費NOW」より大和総研作成

<参考：人出・高速道路交通量>

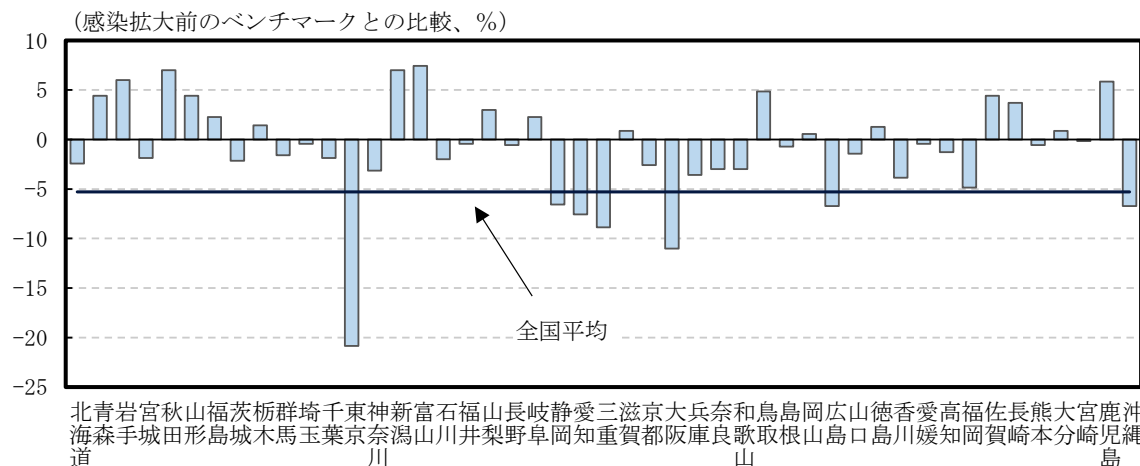
図表 8-1：小売店・娯楽施設の人出（直近値 9/26）と外食・旅行・娯楽関連消費



(注) ベンチマークは2020年1月3日から2月6日の曜日別中央値。太線は7日移動平均。外食・旅行・娯楽関連消費は「外食」「交通」「教養娯楽サービス」の合計値。月～金曜日の祝日とお盆、年末年始のデータは除いている。

(出所) 総務省統計、Google “COVID-19 Community Mobility Reports”、CEICより大和総研作成

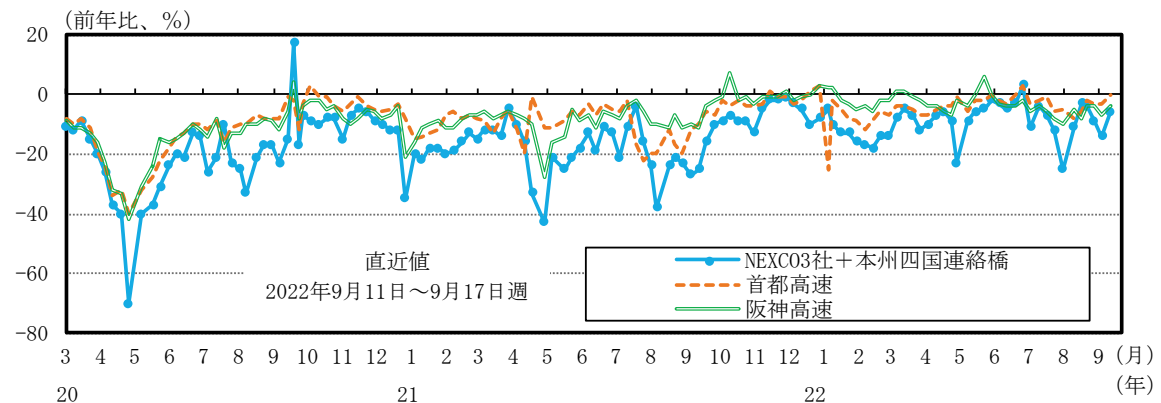
図表 8-2：小売店・娯楽施設の人出（9/20～9/26 平均、都道府県別）



(注) ベンチマークは2020年1月3日から2月6日の曜日別中央値。

(出所) Google “COVID-19 Community Mobility Reports”、CEICより大和総研作成

図表 9：高速道路交通量

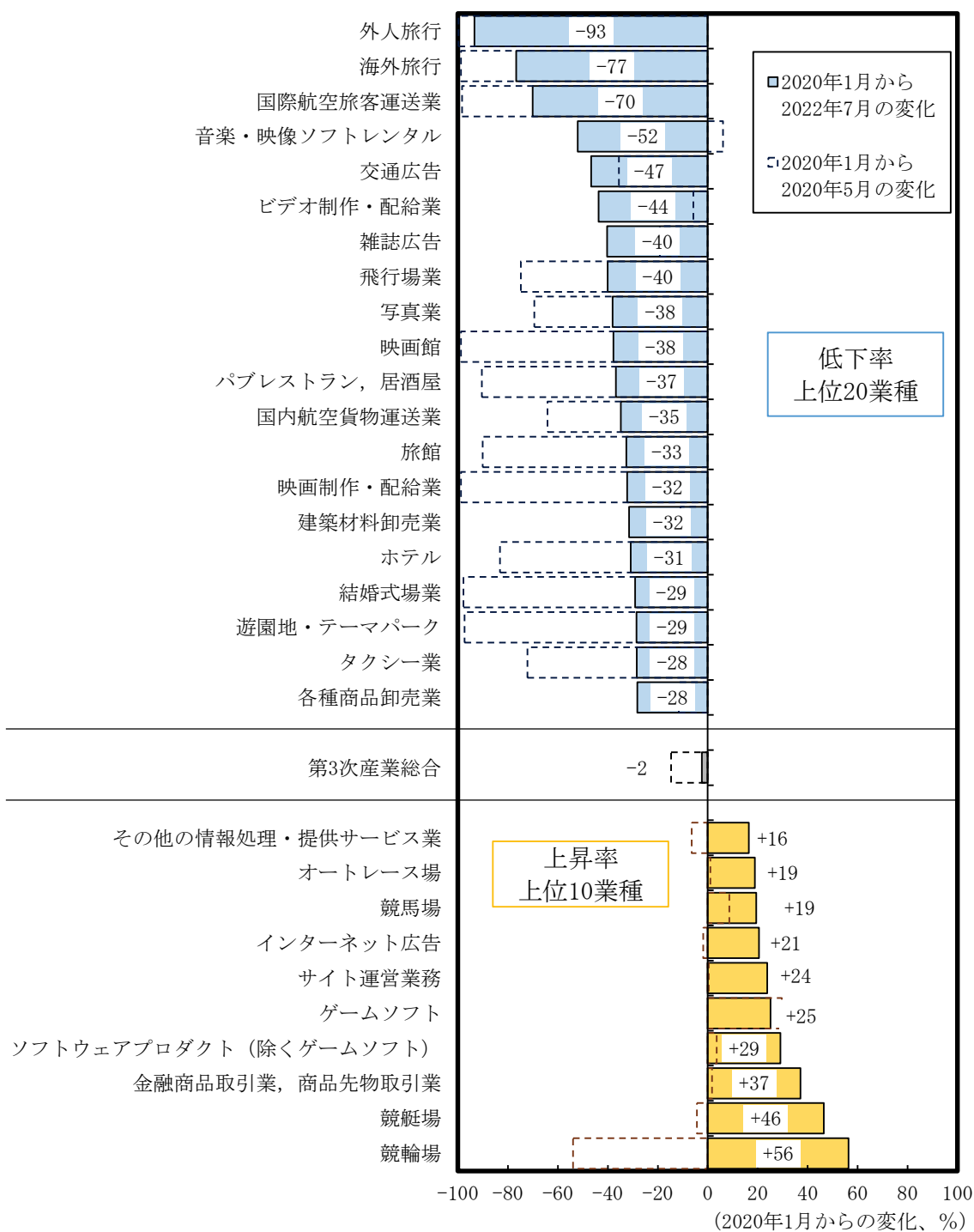


(注) 週次データ。高速道路交通量のゴールデンウィークとお盆期間、シルバーウィーク、年末年始の前後の週は集計日数が異なる。

(出所) 国土交通省より大和総研作成

<参考：第3次産業活動指数>

図表 10-1：第3次産業活動指数（2022年7月）

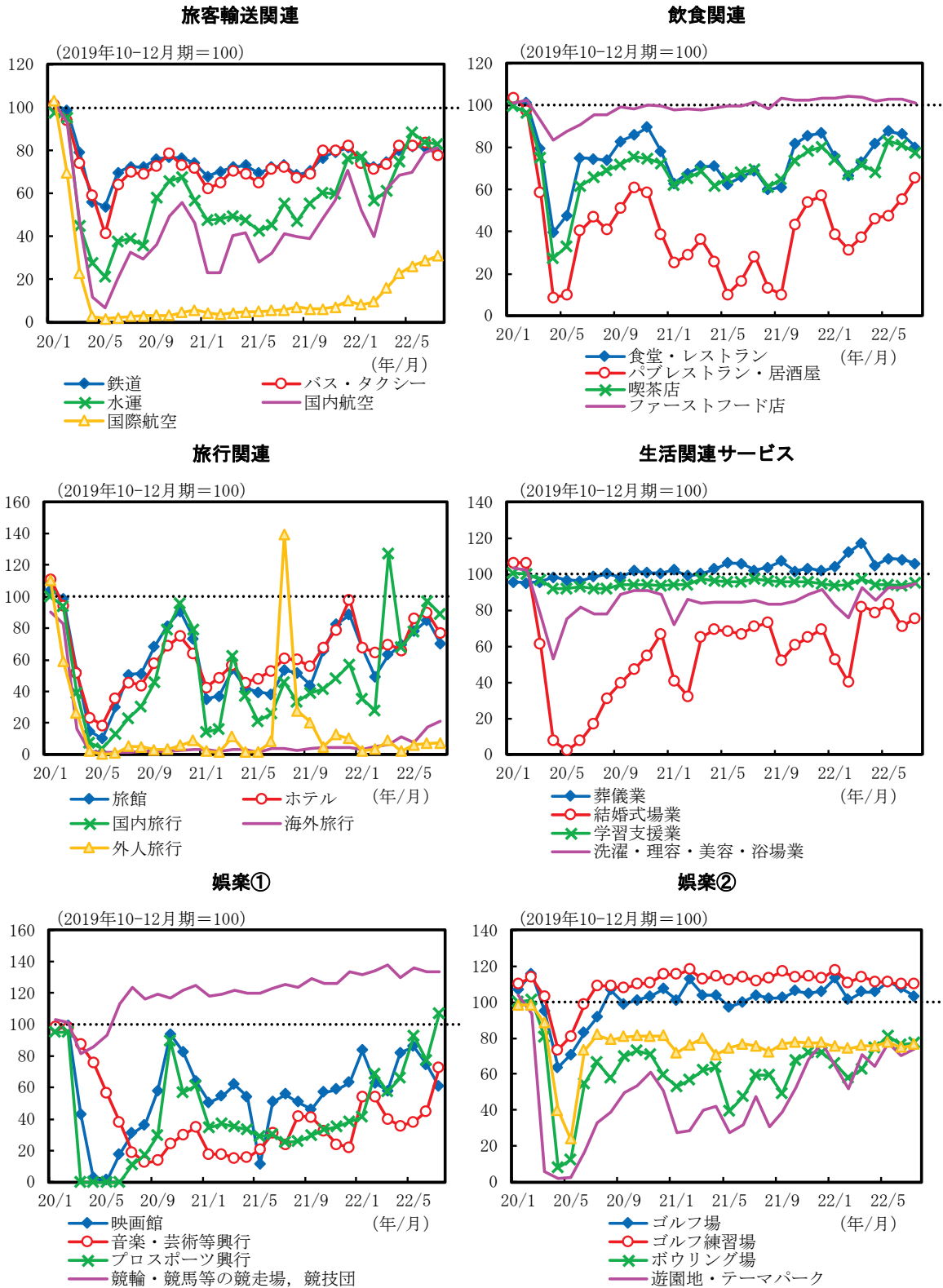


(注) 季節調整値。図中の数値は2020年1月から2022年7月の変化率。

(出所) 経済産業省より大和総研作成



図表 10-2 : 運輸業・生活関連サービス業における活動指数の推移



(出所) 経済産業省より大和総研作成